



札幌市立高等学校生徒会リーダー交流会

市内に8つある市立高校では、毎年、各学校の生徒会役員たちが一堂に会し、生徒会活動などの運営スキルを高めるとともに、創造力、コミュニケーション能力や社会に貢献する資質を身につけ、「真の生徒会リーダー」を育成する交流会を行っています。

11回目となる今年度は、「リーダーは今、どうあるべきかーいさいきた学校作りのためにー」を全体のテーマとし、5つの分科会に分かれて、それぞれ生徒会活動や学校祭などについて議論が行われました。

話し合いでは、「学校祭の実行委員会にもっと多くの生徒に関わってもらうには?」、「様々な行事を効率よく準備するには?」など各学校で抱える問題について、活発に情報交換が行われました。

また、全体テーマの「生徒会リーダーはどうあるべきか」については、「学校生活がよりよくなるよう導く」、「みんなの声を先生に届ける」など意見が出ました。

生徒代表を務めた啓北商業高等学校生徒会長の竹内椋哉（たけうち りょうや）君は、今回の交流会について、「他校と情報交換して、違った考えに触れ、参考になった」と振り返ってくれました。また、生徒会役員の活動については、「学校の行事などが成功するよう影でレールを敷くのが役目。目立たないけれど終わった時



に達成感があり、成長したと実感できる」と充実した様子で話してくれました。

今回の交流会では、校内の問題だけでなく「地域との連携」にも議論が及びました。学校祭に関する地域への周知や、清掃活動といった例のほか、クリスマスツリー点灯式を地域に案内しているという旭ヶ丘高校の取組みや地域でのボランティア活動を行う大通高校の「渉外委員会」の活動が紹介されました。みなさんの地域でも、このような若さあふれるエネルギーな高校生と連携が深まれば、まちづくりもさらに活気が出てくるのではないのでしょうか？

札幌市からの お知らせ

札幌市では、子どもの権利について、実例をまじえて職員が地域に向いて説明する出前講座を行っています。

- ・10人くらいのグループ ・市内に会場の確保をお願いします。
- ・1か月くらい前にご連絡ください。

お申込みは下記の、子どもの権利推進課へ

子どもと学び楽しむ施設の情報

水道記念館 “もいわ”で体験！水の旅

開館期間：4月14日(土)～11月15日(木)
(月曜休館※月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間：9時30分～16時30分
所 在：中央区伏見4丁目
お問い合わせ：水道記念館 ☎561-8928

水源の森から都会を通り、海へと流れる水の旅を体験しながら自然と人間のかかわりや水の不思議について学べる施設です。5月26日(土)には、開館5周年を記念したミニイベントを開催します。詳細は5月上旬にホームページでお知らせします。
HP：http://www.sweb.co.jp/swsa/kinenkan.htm



札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）

開館時間：8時45分～22時（展示室と庭園は9時～17時）
休 館 日：月曜、祝日、毎月最終火曜、年末年始（12月29日～1月3日）
入 館 料：無料
展示室観覧料：一般200円（180円）/高校生100円（90円）（ ）は団体料金
所 在：南区小金湯27番地
お問い合わせ：札幌市アイヌ文化交流センター ☎596-5961

アイヌ民族の生活や歴史、文化等を楽しみながら学ぶ施設です。民具の展示のほか、小中高校生等の団体を対象とした体験プログラムや体験講座、イベントなども開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

HP：http://www.city.sapporo.jp/shimin/pirka-kotan/index.html



子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child

第6号
平成24年3月発行

世界の国を紹介します！

札幌国際プラザ「SAPPORO こども領事」

平成23年12月から約2ヶ月にわたり、子どもたちが外国について学び、それぞれの国の魅力や日本との関係などを発表するSAPPOROこども領事が行われました。

この取組みは、札幌国際プラザ法人化20周年を記念し、同プラザが企画、開催したもので、市内の小学5、6年生48人が参加しました。子どもたちは、5～6人のグループに分かれて、オーストラリア、カナダ、中国、ドイツ、ニュージーランド、韓国、ロシア、スペイン、アメリカの9カ国から一つの国を担当し、それぞれの国のことを勉強しました。

このうち韓国を担当するチームは、12月26日(月)に、領事館を訪問しました。誰も韓国に行ったことはないとのことでしたが、領事やスタッフの方から温かい歓迎を受けると、みんな元気に「韓国の有名な建物は?」「人気のあるゲームやアニメは?」など質問しました。観光地や食べ物、生活など韓国について勉強し、館内を案内してもらううちに、すっかり韓国に親しみを感じたようで、うれしそうに「韓国についてもっと知りたい」、「いつか韓国を旅行してみたい」など感想を話してくれました。

1月29日(日)には、子どもたちによる発表会が札幌コンベンションセンター



特別会議場で開催されました。発表では、万里の長城やソーセージ、K-POPなど日本でもおなじみのものはもちろん、ロシアの工芸品やドイツの自転車、スペインのお祭りなど各国の様々な魅力を紹介してくれました。「オーストラリアのクリスマスは真夏の猛暑の中で行われます」「ドイツのソーセージ類の年間消費量は国民1人あたり約30kgになります」「アメリカには様々な文化、習慣の人がいるので、学校の昼食も何を食べるか選べるようになっていきます」など、子どもたちの発表から改めて、世界の多様性を実感させられます。

さらに、「活気のある中国社会の源は、人々の大らかさ」「ニュージーラ



ンドは自然と共生する国」「スペインのまちには芸術があふれ、生活に溶け込んでいる」「アメリカでは、流行ではなく、自分らしさを表現することが大切」など、みんなそれぞれの国のよさを深く理解できたようでした。

最後に、今回の事業を共催した札幌国際理解教育研究会の中村淳会長から、参加した子どもたちに「この経験をきっかけに、世界に目を向け、未来にはばたく札幌人として成長してほしい」とメッセージが送られ、発表会は幕を閉じました。



○主催：
公益財団法人札幌国際プラザ
多文化交流部（TEL：211-2105）

地域の活動を紹介しませんか？

子どもの権利ニュースでは、地域で行われている子どもの育ちを支える活動について、情報を募集しています。ぜひ、みなさんの地域の情報をご紹介ください。

●募集している地域の取組の例

・子どもと行うまちづくり活動（ボランティア活動、お

祭り、交流イベントなど）

・子どものための体験活動（地域の歴史・自然を学ぶ活動、職業体験、食育など）

●詳しくは…

子ども未来局子どもの権利推進課 TEL：211-2942

平成23年度子どもの権利のメッセージ(作文) 最優秀作品の紹介

「少しの勇気で」 藤田 昌美

私は、いじめを体験したことがある。いじめられる方ではなく、いじめる方だ。いじめとは不思議なもので、いじめる方には全く「自分が悪い」という気はなく、「いじめられるような相手が悪い!」という気になってしまう。

私達でいじめが始まったのは、小学生の頃だ。最初はみんな仲がよくいじめなんて考えられなかった。きっかけは突然。たった一人の悪口から始まった。「調子乗りすぎ」「ウザい」「キモイ」。私は、ただ黙って聞くことしかできなかった。ただ、ほんの少しの勇気で止められたのかも知れない。だが、その時の私には勇気もなく、下手したら自分がいじめられてしまうかも知れない!と黙って話を聞いていた。

その後、悪口はどんどんヒートアップしていき、やがては「無視をしよう」ということになった。無視とはひどく残酷なものだ。自分の存在を無いように扱われてしまう。周りの子も否定できず、話を合わせた。「いいよ」と。

次の日からその子への無視が始まった。その子の傷つく顔を見る度、心が締められる気持ちになった。

だからこそ、自分はあの子のようになりたくない!という気持ちも強く、無視をやめずにいた。

ある日、無視をし続けるのが辛くなった私は、母に相談した。すると母はこう言った。「謝りなさい。」と。

「悪い事をした分、必ず自分に返ってくる。いじめは、いじめられる人にも原因があるかも知れないけど、いじめる人が100%悪い。」

自分が最低だと思った。その子が毎日どんな思いで学校に来てるかを考えると苦しくて泣きそうになった。

次の日その子に謝り、いじめていた子たちにも、こんなことはやめようと言った。その日からその子に対する無視はなくなった。

母からもらった小さな勇気で1人の子を救うことができた。世界中のいじめに苦しんでいる子も、自分の勇気で救うことができるかも知れないと。まずは自分が変わる。自分が変われば相手も変わる。みんなが変われば世界が変わる。みんなが勇気を持つことで世界平和につながるかも知れない。

～子どもの権利に関する作品について～

札幌市では、子どもの権利について関心を高めるため、市内の子どもから子どもの権利の大切さを伝えるイラストやメッセージ作品を募集しました。平成23年度の応募総数は490点で、うち、作文については、221作品ご応募いただきました。このなかから、選考委員会での審査により、最優秀作品を決定しました。

なお、ご応募いただいた作品の一部については、平成23年11月20日(日)に札幌エルプラザで開催したさっぽろ子どもの権利の日記念事業「子どもの権利フェスタ」の会場で展示させていただきました。

地域で活躍する子どもたち 発表！子どもが見つけた地域の「たから」 ～子ども版まちなみ魅力発見プログラムまちなみ子ども編集部～

北区の麻生児童会館では、子どもたちがまちなみを歩き、とっておきの場所を見つけて、その魅力や面白さを紹介する活動が行われました。

この活動は、まちなみの魅力さがしなどを通して、子どもたちに地域への愛着を持ってもらうことを目的に、札幌市市民まちづくり局地域計画課が景観まちづくり普及啓発の一環として企画したものです。

活動は、昨年10月16日(日)と30日(日)に行われ、麻生児童会館近隣の小中学校の子どもたち約20人が参加しました。まず、プログラム1日目「景観探偵けいたん」では、探偵気分でまちなみを探検して、面白い建物や自然を感じる公園などまちなみの「たから」を見つけました。今回、取材したプログラム2日目「まちなみ子ども編集部」では、このまちなみの「たから」からおススメの場所を選んで紹介するガイドブックづくりを行います。

まずは、「たから」をくわしく調べるため、ふたたび、まちあるき取材に出発です。まちなみの「たから」に選んだお寺で、「色んな石像がある」と境内を興味深そうに取材したり、木造の古い建物

の前では、「歴史を感じる」と関心した様子でカメラをパチリ。何気なく通り過ぎていたまちなみの景色も、意識して見るとたくさんの魅力でいっぱいです。取材のあとは、「たから」を紹介する記事づくりですが、カラフルで派手な建物、緑の豊かな公園、人型の絵が描かれた塀などなど、記事がどんどん出来上がっていきました。中には、駐車場に車止めとして並べられた古タイヤを、「タイヤの兄弟」と子どもらしい感性で紹介してくれた記事も。参加した子どもたちも、満足した様子で、「探検して



たくさん発見できた」「次もまた参加したい」など感想を話してくれました。

最後に、プログラムを監修した札幌市立大学那須聖（なすさとし）准教授は、「地域の魅力が発見できるほか、景観に関心を持った市民が育つことで、将来の魅力あるまちづくりにもつながるのでは」と意義を話してくれました。地域計画課では、来年度以降も、この取組をもっと多くの地域に広めていきたいと考えています。皆さんの地域でも、子どもと一緒に地域の「たから」さがしを行ってみてはいかがでしょうか？

○主催：札幌市市民まちづくり局
地域計画課（TEL：211-2545）

札幌市の子ども参加

バーチャル雪まつり 力をあわせてアイデアを実現

さっぽろ雪まつりの協賛行事である「円山動物園スノーフェスティバル」では、子どもたちがインターネットで雪像のアイデアを話し合い、実際の雪像を作製する「バーチャル雪まつり」が行われました。

このバーチャル雪まつりは、子どもたちがインターネットでどんな雪像を



つくりたいか話し合っ、実際につくるという取組みで、コンピュータを活用した教育について研究する「教育とコンピュータ利用研究会（ACE）北海道支部」のメンバーが主体となり実施しています。

今回、参加した子どもは、札幌市立向陵中学校科学部の生徒など約20人で、昨年12月から雪像のテーマやデザインについて議論を重ねてきました。話し合いでは、様々なアイデアが出されましたが、今年の干支である「龍」と「絆」に決定しました。「絆」には、東日本大震災の復興やお互いの繋がりを大切に

するという願いが込められています。雪像製作が行われた2月4日(土)と5日(日)は、氷点下での作業となりましたが、みんな元気に雪像づくりに取り組みました。まずは、設計図をもとに、1辺3メートルの雪の立方体を削ります。固く凍った雪の塊を、立体をイメージしながら削る作業は想像以上に難しく、最初は少し戸惑い気味でしたが、



今回は小・中学生時代に参加経験のある高校生がみんなを引っ張り、しだいに雪像らしくなってきました。そして、作業が進むにつれ、みんなのチームワークも深まり、最後には迫力のある雪像が完成しました。子どもたちも全身をうろこに覆われ、とぐろを巻く龍の姿に、「予想以上にリアルな雪像になった」「達成感があり、よい思い出になった」などとても満足した様子でした。

○主催：バーチャル雪まつり代表 水越 洋
E-mail: vsf@vsfnet.org
○主管：ACE 北海道支部支部長 武田 亘明
TEL：592-5397
(札幌市立大学武田研究室)